

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



2019年8月のツアーのようす。今年はツアーの派遣はかありませんでしたが、再開したらぜひご参加ください。

Contents

- 第27回総会の報告 P 2
- 夏季寄付のお願い P 2
- GEN なんでも勉強会オンライン参加者募集 P 3
- 第27回総会記念講演要旨 P 4～6
- 大同緑化協力25年の軌跡 P 7

2021.7
200

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



Zoom のミーティング ID とパスワードをお知らせします。イベント運営サイト Peatix (<https://gennandemo06.peatix.com/>) からもお申込みいただけます。Peatix は 7 月 30 日 14 時まで申し込みが可能です。

表題を「緑化協力報告会参加希望」として GEN まで (gen@gen-tree.org) メールをお送りください。GEN ホームページのイベント欄からもお申込みいただけます。後日、GEN より Zoom のミーティング ID とパスワードをお知らせします。イベント運営サイト Peatix (<https://gennandemo05.peatix.com/>) からもお申込みいただけます。Peatix は 7 月 26 日 14 時まで申込みが可能です。

緑の地球ネットワーク 第 27 回総会の報告

6 月 12 日、緑の地球ネットワーク第 27 回総会が開催されました。新型コロナウイルス感染拡大のため予定していた会場が利用できず、GEN 事務所と、ウェブ会議システム Zoom によるオンラインでの総会開催となりました。

総会に先立ち、藤沼潤一さんによる記念講演がおこなわれました（講演要旨は P4～P6 に掲載）。

会員 317 名（団体含む）のうち、オンライン参加 43 名、書面または電磁的方法による決議への参加 108 名、委任状提出 48 名、合計 199 名で総会が成立しました。

【議事】
2020 年度事業報告・決算報告・監査

報告とその承認、2021 年度事業計画・予算の提案とその承認、新役員の選出とその承認がおこなわれました。新役員は以下のとおりです。

【第 21 期役員】
○代表 前中久行
○副代表 川島和義／高見邦雄／長坂健司
○事務局長 東川貴子
○会計 川島和義（副代表と兼任）
○世話人 阿部路子／大原一晃／岡和希／河本公子／小西美保子／高田望／鶴田惇／原裕太（新任）／藤沼潤一／町田良太／松永光平／松本美貴子（新任）／宮本敏幸／向井美香／村松弘一

○監査 稲垣文拓／早草晋
○顧問 石原忠一／小川眞／桜井尚武／干場革治／藤原國雄
なお、上田信さんが副代表を退任し、太田房子さん、松島清さんが世話人を退任しました。

東北海岸林 再生活動

宮城県名取市のゆりりん愛護会は東日本大震災で甚大な被害を受けた海岸林を再生させようと、マツの植樹活動を続けています。GEN は 2015 年からゆりりん愛護会と協力し、海岸林再生活動をおこなっています。

毎年現地を訪問し、植樹祭への参加や被災地見学をおこなっていましたが、昨年は訪問することができませんでした。今年は 10 月ごろにツアーを派遣したいと考えています。現在の海岸林や現地の復興のようすを見てみたいという方は GEN までご連絡ください。詳細が決まりましたら GEN よりご連絡します。



これまで植えたマツは順調に育っています

前に認定 NPO 法人に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GEN の場合、寄付金となるのは、緑化基金、運営資金、おまかせ寄付と会費のうち一口を超える部分、賛助会費から 12,000 円を引いた金額です。

また、大阪府民、大阪市民には個人住民税の控除もあります。

くわしくは GEN までご連絡ください。

また、書き損じはがき、未使用切手・古切手を集めています。ご自宅に眠っている切手等ありましたら GEN までお送りください。

夏季寄付のお願い

いつも GEN を応援していただき、ありがとうございます。今回は夏季寄付のお願いです。

昨年度はコロナの影響を受け、中国へのツアーの派遣ができない状況のなか、みなさまからのご寄付や持続化給付金等でなんとか活動を継続することができました。大変に感謝いたします。

今年度も厳しい状況は変わりませんが、現地での植樹活動を継続し、国内ではオンラインでのイベントなどできることを最大限におこない、緑化協力を続けていきますので、引き続きみなさまの応援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

ご送金には同封の郵便振替の用紙をご利用ください。発送作業の都合上、一律に同封しますが、最近ご協力いただいた方には重ねてのお願いではありません。銀行振込でご送金いただく場合はお名前、連絡先、寄付の用途を GEN 事務所までお知らせください。

【銀行口座】
三菱 UFJ 銀行 阪急梅田北支店 普通 5284852 緑の地球ネットワーク
クレジットカードで年会費・寄付の決済ができます。クレジットでの決済をご希望のかたは GEN ホームページからお願いいたします (https://gen-tree.org/join_donate/credit.html)。どうぞよろしくお願いします。

【GEN への寄付は税制上の優遇措置を受けられます】

GEN は大阪市に認定された認定 NPO 法人です（期限は 2024 年 4 月 8 日）。個人による GEN への寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは 2,000 円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業（法人）からの寄付金は、一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また、個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以

GEN なんでも勉強会 オンライン グローバル目標「SDGs」を考えよう # 2 気候変動の現在 京都議定書から 24 年

第 1 回で SDGs の基本をわかりやすく話していただきました。第 2 回は、気候変動をメインにお話ししていただきます。

気候変動は人間活動が原因なのでしょうか。気候変動に対処するために、私たちにできることは？ 気候変動をめぐる認識や枠組みは京都議定書が締結された 24 年前から大きく変化しました。

本講演では、気候変動の要因分析から、その影響評価、パリ協定や「脱炭素化」に向けた枠組み、企業活動の動向、気候の正義まで、様々な観点を取り上げ、多角的な視点で SDG-13「気候変動問題」を考えます。

○日時：7 月 31 日（土）13 時 30 分～15 時 30 分ごろ

○手段：ウェブ会議システム Zoom

○講師：原裕太さん（GEN 世話人 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属教育高度化機構 特任助教）

○参加費：無料

○お申込み・問合せ：7 月 28 日までに表題を「SDGs 勉強会参加希望」として、GEN まで (gen@gen-tree.org) メールをお送りください。GEN ホームページのイベント欄からもお申込みいただけます。後日、GEN より

GEN なんでも勉強会 オンライン 黄土高原緑化協力 もうちょっとで 30 年

GEN の活動開始からまもなく 30 年、これまでの写真などを見ていただきながら、高見副代表がさまざまな緑化協力の経験を振り返ります。ぜひお気軽にご参加ください。

○日時：7 月 27 日（火）19 時～20 時 45 分ごろ

○手段：ウェブ会議システム Zoom

○講師：高見邦雄さん（GEN 副代表）

○参加費：無料

○お申込み・問合せ：7 月 20 日までに

新企画 バトンをつなごう！

GEN 会員によるリレーコラム 第 1 回目 不思議なバランスで進む中国の環境対策 有代 雅人さん（中国上海市）

今号から GEN 会員をつなぐ新企画として、リレーコラムをスタートします。それぞれの思いをリレー形式でお伝えしていく予定です。コラムを読んだの感想や、次号をご執筆いただけるかたを募集しています。ぜひ GEN までご連絡ください。

私の GEN との接点は、サントリー労働組合がワーキングツアーを開始した 1998 年になります。労組退任後も個人会員になっていますが、会費を納めるだけの幽霊会員で、第 1 回の執筆を受けすることにとても気が引けましたが、中国在住会員からスタートしたいとの事務局からのご要望にお応えし、お受けすることにいたしました。そうしたことから、中国在住の生活者視点での中国の環境対策について、記したいと思います。私の上海着任は、2019 年 4 月でしたが、まず驚いたのが、街を走るスクーターが全て電動式で、既

にガソリン車は禁止されていました。また、CVS のレジ袋も有料で、環境対策がかなり進んでいるというのが第一印象でした。しかし、家庭ごみの分別がスタートしたのは同年 7 月と遅く、分別ルールが分かりづらいと、『豚が食べれば生ゴミ、豚が食べないと乾燥ゴミ、豚が食べたら死ぬのが有害ゴミ、売ったら豚と交換できるのがリサイクルゴミ』というユニークな判断方法が口コミで拡がりました。

その後、コロナの収束とともに経済活動が活発化するなか、環境対策が強化され、今年 1 月から全国的に飲食店

でのプラスチックストローの使用が禁止になりました。しかしその一方で、コロナの巣ごもりによって急拡大した「食事デリバリー」をオーダーすると、料理毎にしっかりとしたプラスチック容器に個装の上、レジ袋に入れられて配送されます。食後、そのプラスチックゴミの量に驚くとともに、心を痛めております。

昨年 9 月の国連総会で、習近平主席が「二酸化炭素排出量を 2030 年までにピークアウト、2060 年にカーボンニュートラル」を宣言しました。この宣言を受け、今後中国ならではのスピード感で環境対策が強化され、今のアンバランスさが一気に解消されていくものと推察しております。

第 27 回総会記念講演要旨

マクロ生態学の視点で自然共生を考える

藤沼 潤一さん

タルト大学（エストニア共和国）マクロ生態学研究室

第 27 回総会に先立ち、記念講演をおこないました。今回はエストニア在住の藤沼潤一さんとオンラインでつなぎ、お話しいただきました。（文責＝編集部）

わたしは高校を中退し、いろんな仕事をしましたが、その間 GEN のワーキングツアーに参加した体験から大きな影響を受け、環境に関わる仕事を志しました。大学で生態学を学び、マレーシアの熱帯林における竹類と樹木の共存メカニズムに関する研究で博士号を取得しました。その後、琉球大学で博士研究員となり、ここで初めてマクロ生態学に関わるようになりました。一般的な生態学とは使う手法も概念も大きく異なり、博士になってあらためて新しいことを学んでいる状況です。

マクロ生態学とは

生態学は、生物と生物、あるいは生物と環境の相互作用を研究する学問分野です。大きなという意味の「マクロ」がついたマクロ生態学は、大きな地理スケール・時間スケールで生態現象を扱います。生態現象を階層的に捉えると、まず分子や細胞の集まりによって個体が作られ、個体が集まると個体群、違う種の個体が集まると群集、さらに進化的地理的に同じ道をたどってきた生物が集まる生物地理区をそれぞれの階層を構成するユニットとして扱うことができます。

マクロ生態学では、およそ 100km × 100km ぐらいの広がりから、最大では地球全体に及ぶ空間スケールで生態学的な現象を理解し、現在見られる生物多様性の起源や維持メカニズムの解明をおこないます。この空間スケールでは、ごくまれに起きる生物の長距離移動や、島嶼形成の歴史など、過去の偶発的なイベントの影響が重要になります。また時間スケールで見ると、10 万年サイクルの氷期・間氷期や、種の寿命（種が分化してから絶滅するまでの平均時間）のような現象や、最大では億年単位の大陸移動の歴史も、マクロ生態学研究では不可欠な要素となることが多々あります。

このようにマクロ生態学は、マクロスケールの生物地理パターンを、局所スケールで培われた生態学理論を当てはめることによって理解します。種の認識から始まった系統分類学は、生物種の地理的な分布パターンを明らかにする生物地理学の発展を促しました。一方で、局所的な生物群集の振る舞いは、生態学によって、生化学、生理現象、個体間相互作用の積み上げとして理解が進められます。この広域の生物地理パターンと局所的な生態学的理解を繋げる役目を担うのがマクロ生態学です。しかしながら、これまで、広域スケールの生物地理データは非常に希少であったことから、チャールズ・ダーウィンやアルフレッド・ウォレスに始まる生物地理学は、近年マクロ生態学研究が脚光を浴びるようになるまでの間、長い停滞期を迎えます。

マクロ生態学の方法論

90 年代以降のネットワーク環境と計算機技術の革新は、マクロ生態学の発展を加速させました。コンピュータの計算速度は年と共に指数関数的に向上し、ネットワーク環境も劇的に改良され続けています。それに伴って、統計解析手法や、観察技術も目覚ましい発展を遂げています。例えば、ドローンによる 3 次元構造情報の網羅的な収集や、DNA のメタバーコーディング技術の環境 DNA の分析技術の進歩は、これまで入手不可能だった規模と質のデータ収集を可能にしつつあります。また、長年行われてきた個別の記載研究（学術論文、地域自然誌、環境アセスメント報告書、卒業論文など）も、大規模な生物地理データベースとして再活用が進んでいます。

例えば、私が以前所属していた琉球大学では、アナログ文献をデジタル化してデータベースを構築するという作業を何年も続けています。このよう

に手入力された情報は、入念なクリーニング過程と規格化過程を経て、研究利用できるデータベースに集積されます。琉球大学の日本の生物多様性地図化プロジェクト（URL <https://biodiversity-map.thinknature-japan.com/>）では、このように蓄積された 50 項目以上の生物多様性に関わる地図情報を 1km × 1km の解像度で見ることができ、都道府県や市町村レベルで集約された生物多様性情報を PDF として取得できます。

マクロ生態学の研究例

マクロ生態学ではさまざまなテーマで研究が進められていますが、その中でも生物多様性の緯度勾配や地域差に関する研究はマクロ生態学の発展に大きく寄与してきました。他にも、現在見られる生物地理パターンに対して歴史 & 偶然 vs. 生態学的過程がそれぞれのように貢献したかの議論や、生息地の空間分布と生物多様性の関係、観察スケールが現象理解に及ぼす影響、種の分布範囲を決める要因の解明などは、マクロ生態学の得意とするテーマです。

実社会が直面している問題では、例えば、環境変動や気候変動で生物多様性がどう変化するのか、侵入外来種の地理的、系統学的なパターンから侵入メカニズムを追求する研究も盛んです。

生物多様性は、複数の生物種の集まりによって形成され、マクロ生態学ではさまざまな基準に基づいて観察地点ごとに多様性を数値換算して評価します。もっとも基本的なものでは種の数有多様性の尺度とします。他にも、機能的多様性や系統的多様性も頻繁に用いられます。機能的多様性は、種ごとの機能形質の量的／質的情報を集約して群集ごとに評価します。例えば、昆虫だとサイズや飛ぶ速さ、食性などによって機能を評価することができます。各群集を構成する種の機能情報を集約して、比較的に群集のスペックを評価できることが、機能的多様性の利点です。この情報に基づいて、生態系機能の相対値や脆弱性を推定したり、あるいは群集ごとの機能的多様性の値から、群集が形成されたプロセスを比較的に理解する上で役立ちます。例えば「機能的多様性が高い群集 → 競争関係を回

避して多数共存」や、「機能的多様性が低い群集 → 特殊環境への適応 → 特殊機能形質の選択」などです。

また、系統的多様性は、DNA 情報に基づいて、各群集を構成する種が比較的に最近分化したのか古くに分化したのかを評価します。例えばガラパゴス諸島のように比較的最近形成された生態系は、ダーウィンフィンチのように、1 ～少数の祖先種から派生した近縁種の集まりによって特定の分類群が占められているケースが多々あります。また、「進化的な距離」と「機能的な差異」がある程度相関することから、「系統的多様性が高い群集は、生態系機能も充実している」と仮定して、環境保全計画を検討する上で用いられたりもします。

このように現在・過去の生物多様性をさまざまな基準で評価し、環境情報などと合わせて、個々の種の地理的な分布変動の積み重ねとして理解するのがマクロ生態学の基本となります。

上述のとおり、マクロ生態学で頻繁に扱われるテーマに、生物多様性、特に種数の緯度勾配があります。各群集を構成する種の数、群集が初めて形成されて以来の新種の誕生、種の移入、種の局所絶滅の 3 つの要素の変動によって決まります。さまざまな分類群で、熱帯地域ほど種の数が多いというマクロ生態学的パターンは、熱帯ほど新種が誕生する速度が早い（ゆりかご仮説；Stenseth 1984）あるいは、長期にわたって誕生してきた新種が保存されている（博物館仮説；Stenseth 1984）のような仮説によって理解が試みられてきました。同様に、生物多様性の緯度勾配を説明するさまざまな仮説が提唱されており、これらの仮説に対して生物の多様な分類群の生物地理パターンを当てはめて検証されています。

また、同じ環境条件下で見られる生物多様性の差異の例として、アジア大陸東部とアメリカ大陸東部の植物の系統的多様性の比較をしてみます（Qian et al. 2017）。この 2 地域は、過去に同一の生物地理区に属していた背景から、現在でもこの 2 地域に固有の分類群が見られるなど、進化的、生態学的に類似しています。しかしながら、系統的

多様性で比較すると、アジア大陸東部の方が断然高い値を示します。その理由として、日本を含む東アジア島嶼との連結・分断の歴史や、氷河形成の有無、温帯・熱帯間の繋がり、などが強く寄与したことが考えられます。

わたしの研究

琉球大学に所属していた当時、植物のクローナル性をマクロ生態学の視点で理解する、という研究を行っていました。クローン個体（遺伝的に同じ個体）を生産する繁殖様式をクローナル繁殖、栄養繁殖、無性繁殖など呼びます。有性、無性それぞれの繁殖様式には長短があります。有性繁殖だと開花→送粉→受粉→結実→散布→定着までの全過程を成功させないと子孫を残すことができません。これまで、植物のクローナル性が生態学的に個々の植物にとってどのような利点があるのか、

という研究はたくさん発表されてきました。しかし、それが全ての植物や生育環境においてどれほど一般的なのか、生物多様性の地理パターンにどれほど影響を与えているのか、ほとんど検証されてきませんでした。これを明らかにするために、近縁の植物種間で、クローナル性の有無が、植物の分布できる地理的環境にどのような違いをもたらすのかを日本の維管束植物種（全 5631 種）の半数以上の種を対象に検証しました。クローナル繁殖できる植物種の分布割合（10 km x 10 km）で色を塗ると、こんな地図が描けました。（図 1）。例えば樹木の地図では、暖かい地域から寒い地域にかけてすごくきれいな分布割合の勾配がみられました。また全種で遺伝情報も整備し、クローナル性は親種から分化した娘種に引き継ぎやすい傾向があることを明らかにしました。すなわちクローナル植物の中には、親譲りでクローナル



繁殖をするが、生態学的な利点と言えるほど有効に機能しているかどうかは不明というケースもある、ということがわかりました。

一方、クローナル繁殖の有無によって植物の地理的分布が変わるかを検証すると、降水量や土壌特性、種の多様性が異なる地域に分布していることが明らかになりました。これまでは、個々の生物種の個々の生育地における個別の結果としてクローナル性が議論されていましたが、マクロ生態学的なアプローチを用いると、この議論を植物全体においてどれほど一般化できるのか

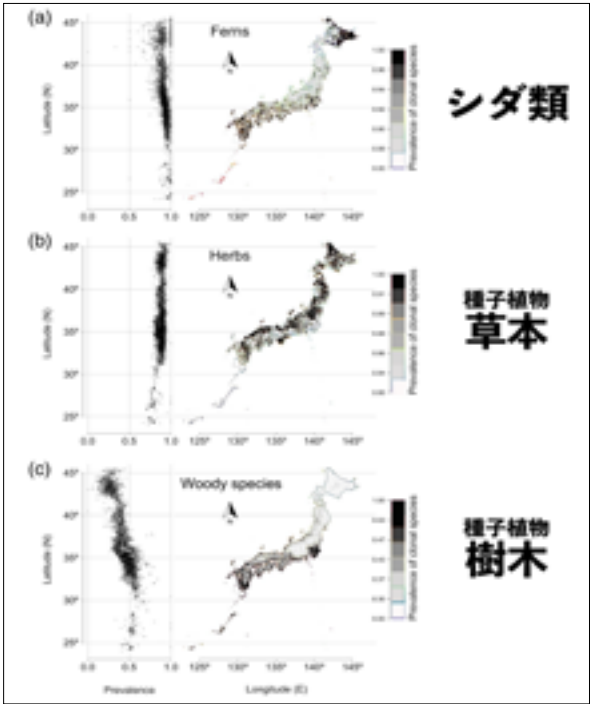


図 1 クローナル植物の優先率地図

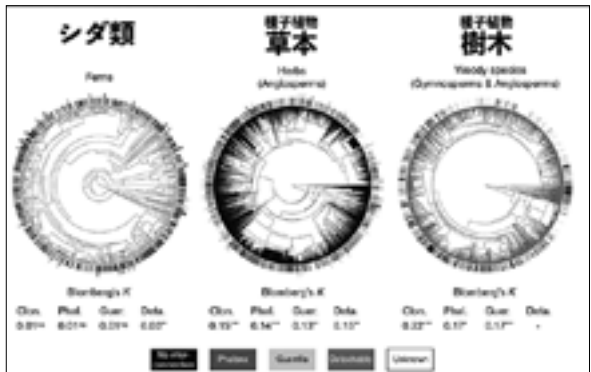


図 2 草本と木本では親のクローナル性を引き継ぎやすい

を明確にできることがわかります。

また、現職のエストニアでは、「消えやすい種」vs「消しやすい環境」というテーマで研究を進めています。ある種にとっての生息適地において、その種が分布していない場合、なぜ分布していないのか、を考えてみます。その種の生態学的特性が不在の原因になっているのか（消えやすい種）、あるいはその環境がその種の分布を拒む要因を含んでいるのか、はたまた偶然不在なのか、3つが考えられます。私の研究では、3つの原因の寄与を推定することに挑戦しています。現在は、コンピュータの中で、100種の植物を100のサイトで繁殖させ、環境の消しやすさや種の消えやすさを評価しています。将来的には、種と環境の消しやすさ2つの尺度で世界地図を塗ることを目標にしています。この地図情報は、環境保全計画を策定する上で、限られた予算を種の保護に投下するのか、生息地の保全に投下するのかに関して、明確な方針を提示できます。

最後に、マクロ生態学が環境保全に対し具体的にどのような貢献ができるか3つ例をあげます。①外来種の侵入パターンとメカニズム②気候変動・環境変動に対する生物多様性の応答の予測③生息地の分断化や改変が生物の分布にどのような影響を与えるかの予測。

また、生物多様性の分布パターンそのものの分析から、保全優先地域を特定したり、侵入外来種の適応的管理や防除、環境アセスメントの効率的な事業計画などの実際的な作業を支援できます。例えば哺乳類と淡水魚類の種の多様性地図を見ると、多様性の地理パターンがまったく異なります。また、イリオモテヤマネコなど保全上重要とされている種が、哺乳類多様性が比較的低い島に分布していたりと、種多様性だけで保全優先地域を考えるとさまざまな問題が生じます。生物地理情報を活用すると、全ての種の絶滅リスクを最小に抑える、という目標に基づいた保全優先地域の特定を行うことができます。

今回の講演では当初予定していた、「GENの活動をマクロ生態学的に評価する」というお話ができませんでした

が、GENの植林サイトにおける自然再生が進むと、今後どんな生物多様性を補足することになるのか、どれだけ黄土高原の自然再生に貢献できるかを数値として評価することができます。現在、GENメンバーの研究者が集まり「GEN-research」というチームを作って少しずつ活動を始めています。今後興味深い結果が出てくると思いますの

あの人この人

「あの人この人」では、個性豊かなGEN会員のあれこれをご紹介します。

小倉亜沙美さん（広島県）



私がGENの会員になったのは確か和歌山工業高等専門学校（以下、高専）を卒業し、広島大学に編入学をした2002年だったと思います。会員になって20年近く経つのに、機会を逸してしまい黄土高原にも行ったことがなく広島から活動を応援するのみでしたが、コロナ禍の影響で今年の総会がオンラインで開催されたおかげで、久しぶりに参加させていただきました。

20年前、私は高専で機械工学を学ぶ学生でしたが、その後広島大学で環境科学を学び、国際交流の仕事や広島大学平和センターの教員を経て、2019年から呉高専の教員として働いています。

GENの活動にはなかなか参加できていませんが、学生の時からずっと環境保全活動を続けています。私の住む東広島市西条町は、灘、伏見と並ぶ三大名醸地として有名な町です。日本酒の約8割は水で出来ていますので、日本酒の原料である水を守ることは、産業や文化を守ることにつながります。

で、ご注目ください。

今回の講演はGENのYouTubeチャンネルでご覧いただけます。URL <https://www.youtube.com/watch?v=xNWTPVvaTWk&t=119s> 右のQRコードからも視聴できます。



その仕込み水である龍王山の伏流水を守るため、2001年に酒蔵と周辺大学など関係者で「西条・山と水の環境機構」が立ち上げられました。機構では、西条の日本酒が1升売れるごとに1円が「西条・山と水の基金」に積み立てられる仕組みになっており、そのお金を原資として山の除間伐をしたり（山のグラウンドワーク）、山と水の繋がりを体験してもらう講座（水のグラウンドワーク）や地域の環境保全活動を行う団体に助成金を出すなどの活動をしています。

広島大学に編入して環境のことを学んでいた私は、広島大学で初めて正式な授業の中でこの機構の説明をされた際に受講していた学生で、すぐに活動に参加するようになりました。大学卒業後に運営委員の一員となり今も運営委員の一人として活動に参加しています。その中で、小学校の総合学習のゲストティーチャーとして学校に行ったり子供たちの質問に答えたり、子供たちや山のグラウンドワークに参加した人に山と水の繋がりを伝える活動なども続けています。また国際交流の仕事をしていた際には、海外から日本に来た留学生や研修生の人にこの活動を紹介したり、利き水体験をしてもったりもしました。

この間、プライベートでは結婚・出産をしました。今年で4歳になる息子を育てるなかで、外国籍乳幼児の保護者と保育士とのコミュニケーションに大きな課題があることに気づき、現在卒業研究の指導をしている学生さんと共にその改善に向けたツールの作成にも取り組んでいます。

コロナ禍のおかげで社会のオンライン化が進んでいるので、今後GENの活動にも参加できればと思っています。

大同緑化協力25年の軌跡

小老樹のこと

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で26回目です。（高見邦雄）



写真の木、なんの木だと思います？じつはこれ、ポプラ（小葉楊）です。いまは少なくなったんですけど、1990年代には桑干河流域の大同県や懷仁県で、この林があちこちで見られました。いまの中国が1949年に成立し、北京が首都に決まると、その水源にあたるここで大緑化運動が始まったのです。1950年代から60年代にかけてのこと。

ツアーのバスを運転してくれた馬さんが、実家近くでバスを停め、思い出を語ってくれました。こどものころ、父親のあとについて植樹に参加したんだそう。大面積に一斉に植えるので、苗がまにあいません。ポプラの枝を切ってきて、それを現場に挿しました。それでもよく活着し、すくすく育って、とてもうれしかったそうです。

ところが、あとになってだんだん弱り、背丈も縮んでしまった。どうしたんでしょう？ポプラは成長が速いぶん、水の要求量が大きいのです。若苗のころ必要な水は多くないので、順調に育ちます。隣りの木と枝葉が重なるころには根も重なって、水の取り合いになります。早魃で水がなくなると、ポプラは先端を枯らします。でも下部は生きてい

て、枝の一本が幹に代わって、また伸び始めます。それが度重なり、グニャグニャに曲がって、ポプラとは思えぬ樹形になります。また樹勢が弱ると、病気や虫がつきます。これらの木はカミキリムシの幼虫に取りつかれ、満身創痍になりました。地元の人はこれらを「小老樹」と呼びます。中国人は名前の前に小や老をつけて、親しみや敬意を表しますので、字面から日本人が受けるのとは違う意味もあるかもしれません。でも、ゴミを捨てたり、勝手に墓をつくったりするので、大切にしているとは思えません。

最初のころ、私はこの小老樹をみて気落ちしました。先覚者の先生から「君たち素人は勇敢だ。黄土高原で成功す

関東ブランチャ オンライン月例会

GEN 関東ブランチャオンライン月例会は、毎月第4土曜日におこなわれています。ウェブ会議システム Zoom を利用しますので、どこからでも、どなたでもご参加いただけます。

月例会の案内は関東ブランチャのメーリングリストから発信されますので、興味をお持ちの方はメーリングリスト

への登録をお願いいたします。登録希望の方は上田信さん（ueda@rikkyo.ac.jp）までご連絡ください。

【7月度月例会】

○日時：7月24日（土）15時～

○話題提供：安藤貞利さん（GEN 会員）

○タイトル：時代をさかのぼり見えたモロッコの観光都市

青年時代、シニア時代2回の滞在経験から見えたモロッコの様々な都市の姿をご紹介します。



れば君たちが一番だけど、あそこで木は育たないよ」と言われたからです。小老樹をその象徴のように考えました。

あるとき、この林にはいって、足裏の感触に驚きました。軟らかいのです。スコップで掘ってみると、かなりの深さまで黒い土。小老樹は、自分は育たなかったけど、毎年、枯れ葉や枯れ枝を落として、土を豊かにしたのです。それをみて、私はずいぶんと救われました。目に見える成功がなくても、あとのために少しでも役立てばいいのです。

この土地を切り開いて、果樹園や畑をつくると、立派なものができます。大同県周土庄鎮で建設した白登苗圃や実験果樹園、緑の地球環境センターの前身はこの小老樹でした。ツアー参加者を案内して、私は「小老樹はえらい！日本でも中国でも、おじいちゃんおばあちゃんが勝手な買い物をしているけど、クレジットカードの名前は孫のものだ。環境を壊して、その負担を後の世代に負わせている。小老樹は逆に、自分は育たなくても、後の世代のために土を肥やしている」と話したものです。それを知って、大同の仲間たちは「高見は小老樹主義だ！」と呼び始めました。



総会にお寄せいただいたメッセージの一部をご紹介します。

○コロナ禍で世の中も変わり、中国に行こうにもなかなか行けないですね。古代中国好きとして蔚県に行きたいです。これからもよろしくお願いします。（O.Y）

○コロナ禍でご苦勞が多いことと思いますが、樹木こそ後世への一番間違いのない贈り物（8ページへ続く）

(7ページから続く)

と思いますので、この活動が永く続くことをお祈りいたします。(M.K)

- 2年に渡るコロナ禍の下、さまざまな面で厳しい状況があること、ご苦労されている様子がよくわかります。受け身の支援しかできませんが、これからも応援していく気持ちは変わりません。がんばってください。

(K.K)

- 社会人となり、日々の業務に追われる毎日ですが、会報等でみなさまの体験談やインタビュー記事を拝見し、新たな気づきを得ています。今後も活動を応援していきます。

(M.S)

- 昨年初めて総会に参加させていただき、とてもよかったです。一年間にもできませんでした、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。古切手また送らせていただきます。

(O.M)

- 黄土高原に行って20年が経ちました。個人的には最近こういった活動は良い意味でも悪い意味でも分岐点を迎えているように感じます。これからは末永く GEN の活動に関心を持ち続けたいと思います。(E.M)

- すっかり活動から足が遠のいておりますが、私の人生を大きく方向づけていただいた感謝の気持ちもあり、こうした人がまた増えてほしいという願いも込めて、継続をさせていただいております。(F.K)

- 昨年からお休みになっているスタディツアー、早くに再開できるこ

とを祈っています。仕事の都合がつけばまた参加したいなと思っています。(M.K)

- この度世話人を退任いたします。1992年の GEN スタート時から続けてきましたが少し長すぎた気もしています。代わって、大同の農村でいっしょに木を植えた若者だった人たちなど次の世代の人たちが新たに世話人を引き受けてくれるとのこと、大いに期待しています。今後が楽しみです。(O.F)

- 蔚県の現状と今後の見通しを詳細に知らせていただき、安心しました。日本からも動ける日が一日でも早く訪れるよう、祈っています。(K.N)

- ご無沙汰しております。1998年のワーキングツアーに参加してから23年が経ちました。参加時点での年齢の2倍生きてきましたが、あの時から自分は地球のために何をしてきただろう、と思うことがあります。コロナ禍で移動がままならない今、家の裏山の蔓を除去したり、大したことはしていませんが、今一度ツアーに参加した頃の純粋な(?)気持ちを思い出して、これからの自分の生き方を考えてみたいと思っています。(F.S)

- いつもさまざまなイベントの企画実施ありがとうございます。以前よりも頻繁に会員みなさんとお会いできているように思います(画面越しですが)。蔚県の事業の今後の展開も楽しみです。(M.K)

情報ひろば いうんかたち

*当欄掲載のイベント情報は情報提供を受けた時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。

*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。

なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

9月開講 第19期 自然環境市民大学 参加者募集

2021年度は前期が中止となり、9月開講の後期にまとめて24回開催します。

- 時期：9月～3月の全24回。原則水曜日開催。

- 定員：15名程度

- 受講料：40,000円

- 講師：高田直俊氏（大阪市立大学名誉教授）、佐藤治雄氏（大阪府立大学名誉教授）ほか。諸般の事情で変更になることがあります。

- 申込み方法：氏名、性別、年齢、住所、e-mail、電話番号、ファクス番号、携帯電話、保全協会の会員か否かを記入して電話、ファクス、e-mail、HPの申込フォームから申込みください。

- 主催・申込み先：（公社）大阪自然環境保全協会事務局（〒530-0041 大阪市北区天神橋1-9-13 ハイム天神橋202号 tel.06-6242-8720 fax.06-6881-8103 e-mail: shimin@nature.or.jp URL: <http://www.nature.or.jp>）